

困ったことは何でも組合へ相談を



全日本金属情報機器労働組合(JMU) 日本アイビーエム支部
東京都港区赤坂2丁目200-6
川瀬ビル5F 〒107-0052
TEL.: 03-3583-9037
FAX.: 03-5562-0853

定価 月 500円

契約期限切り多発か IBCSでPC社員

IBCSにおいてPC(プロフェッショナル・コントラクト)3年以内の有期雇用契約)社員に対し、契約期限を前に契約継続条件を一方的に不利変更し、「このままでは更新できない」と脅すという形でのリストラ

が進行しています。もともPC契約社員は、会社からは口約束とはいえ「更新されないのはIBC評価3・4の場合であり、評価2以上であれば契約は原則更新される」と甘い言葉をかけられてこの形勢で契約しているのに対し、このリストラに当たって会社側は「IBC評価2でも更新しない」と脅している実態が明らかになってきています。PC契約の契約書には「会社は、PC契約社員の評価、期待業績に対する達成度および執務態度ならびに会社の経営状況を総合的に勘案して、更新の有無を決定します。」とあります。これでは、更新の有無についての基準設定が不明確であり、会社側が意図的に対象社員を低評価にしたり、「会社の業績が悪かった」といった理由で「自由に」契約を更新しない可能性を示唆しており問題です。労働契約法制を悪用し



有楽町駅前で宣伝行動

組合は11月25日夕方から有楽町駅前において退職強要・人権侵害裁判の宣伝行動を行いました。すぐ目の前にはピツカカメラがあり、買い物客や帰宅途中の人々でこった返す中で、多くの人々に日本IBM人権侵害裁判の支持を訴えることができました。道行く人達の中には日本IBMという名前を聞いて、「あの会社がこんなことをしたのか」と足を止める人も多く見られました。組合は今後も多くの一人々に支持を訴えていく予定です。(関連記事を2面に掲載)

IBM人権侵害裁判で

一方的な契約条件の不利変更を「道具」として、このような「派遣切り」同様のリストラを行うことは、断じて許せません。同様の通告を受けて困っている方は、至急組合へご相談ください。組合としても、個別に「契約期限切り」をやめさせることも、スキルに見合った仕事をアサインするべく、会社に対して強く要求していきます。

心の健康を守る活動さらに推進 “働くもののいのちと健康を守る全国センター”総会に出席して

箱崎事業所 石原隆行

12月4日、働くもののいのちと健康を守る全国センター(以下「いのち健康センター」)総会が全国センター)総会が行なわれ、多くの加入団体・個人の参加を得て、活発な議論が展開されました。

このうち結成十周年を迎えた、いのち健康センターは、都道府県単位の地方センターと協業して、職場・地域で働くものの健康・安全を守る活動を推進し、また被災者を救済するための取り組みを行なう団体です。今まで

にも労働安全衛生や防災認定への取り組みなどで数々の実績をあげている労働者のいのちと健康を守ることを専業とする組織です。 労災認定基準改善を政策・制度要求に 総会においては、前年度の活動の総括、本年度の活動方針とともに政策・制度要求が提案されたのち、活発な議論が展開されました。

活動の成果などについての発表に続き、議論を通して労災認定基準に關してさまざまな問題点があり、労災認定基準がまだまだほとんどに労働者のことを考えたものになっていないことが明らかになりました。

JMIU日本アイビーエム支部 裁判・要請行動のご案内

日本IBM人権侵害裁判「第4回裁判」
12月25日(金)
宣伝行動: 東京地裁前 8時30分~9時
裁判: 10時~東京地方裁判所 619号法廷

日本IBM会社分割事件最高裁要請行動
最高裁要請行動 12月25日(金)
13時15分~13時45分 最高裁 東門

改善もメンタルヘルス改善に向け協力体制 さて、いのち健康センターの活動方針においても、メンタルヘルス問題は職場での最重要課題として位置づけられています。日本IBMにおいても、昨今長時間残業やパワハラなどによりメンタルヘルスを損ねている人が増えている実態を踏まえ、組合はいのち健康センター・東京センターの協力を得ながら、労働安全衛生に関する会社への要求を強めているところ

が提唱する「ディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)」を政府の基本政策に採用することを求めています。次に各論として「長時間・過密労働を是正し、過労死を根絶すること」や、非正規雇用者も含めた労働安全衛生体制の確立、労災などの認定基準および労災補償制度や不服審査制度などの改善を求めています。

具体的には、秋闘要求からはじまり、会社への抗議要請行動の要請団に加わっていただいたり、昨年の退職強要で精神疾患になった者について労災申請を行ったりしています。

今後は状況を見ながら、現在精神疾患で休職した者が復職する際の大きな壁となつている「復職支援プログラム」の見直し要求や、本来中立であるべきところ、会社側には有利な判定をしているケースが見られる産業医への要請なども考えていきます。

互選議員を組合から出し、会社と健康保険組合の動きを「見える化」することは、日本IBMの労働安全衛生のあり方を考える大きな力となります。この面でもぜひ組合へのご支援をお願いいたします。

「Tomorrow」の歌声が争議勝利報告集会の会場に響き渡った。この歌は東武鉄道グループの横暴なリストラに屈せず明るく元気に闘いぬいた25人の女性たちのテーマソングである。7年前社長から突然の解雇宣言をうけ一枚のピラを頼りにわらをもつかむ思いで組合を結成。次から次へと繰り返される理不尽な会社の攻撃に耐え時には職場を去る仲間の中で涙しながらも自分を信じ、仲間を信じ明日の勝利を信じ歌い続けついに勝訴した。「映画「ドレイ工場」の舞台となつた日本ロールの47年間に渡る闘いは解決したが、我が支部は組合結成以来長い闘いが続いている。涙の数だけ強くなる。よ、正義は勝つよ。そんな時も、勝利は来るよ。私たちに。我々に闘つ勇氣と希望を与えてくれたすばらしい闘いに心から感謝する。(田舎人)